

表通り裏通り

いざ、天皇杯!!



相手がJFLのクラブチームにもかかわらず、自分たちのサッカーを続けた、尚美学園大学サッカー部の攻撃

日本最大のサッカーのオープントーナメント、天皇杯全日本サッカー選手権大会。八十六回目となることは、全国六千三百九十チームが参加しています。埼玉県代表として県内三百九十チームの頂点に立ったのは、尚美学園大学サッカー部。創部わずか七年目での快挙です。



天皇杯の先発メンバー

「集中！ 集中！」と声が響く練習場。九月九日、まだ夏が続いているような日ざしの中で、緊張感のある練習を続ける尚美学園大学サッカー部（以下「尚美大」）。現在、関東大学サッカー連盟の二部リーグに所属しています。翌日のリーグ戦に備えて、実戦形式で一時間の練習です。通常は、週六日、一日二時間練習しています。チームの特色は、つなぐサッカー。豊富な運動量とパスワークで相手を崩していきます。



試合さながら、熱の入った練習

尚美大の天皇杯初戦は九月二十三日、会場は川越運動公園。相手は、日本フットボールリーグ（JFL）所属の栃木サッカークラブ（以下「栃木SC」）に決まりました。格が上の相手ですが、走り負けなければ勝機は十分にあります。「選手個々の能力は高いと思

ます。選手どうしの共通理解が進めば、尚美大はもつと上を目指すことができるはず」と四年生の中山智之さん。

いよいよ試合当日。キックオフは午後一時です。前半が始まると、尚美大は豊富な運動量を生かして、栃木SCにプレッシャーをかけ続けます。何度も相手陣内に攻め込み、前半十六分にはペナルティーキックのチャンスを得ます。しかしゴールキパーに阻まれ、先制点のチャンス逃してしまいます。尚美大はその後も果敢に攻め込みますが、そのまま両チーム無得点で前半を終了しました。

前半は、尚美大の理想的な試合展開でした。しかし後半、一瞬のすきをついた栃木SCに得点を奪われてしまいます。「集中が切れてしまった」と、キャプテンを務めた中山さん。尚美大は前線に人数を増やして



前半は五角以上の戦いで、栃木SCのゴールに迫りました

反撃しますが、そのまま試合終了の笛の音。結局2対0で、ことしの天皇杯は幕を閉じました。最後まで、戦う姿勢を貫き通した尚美大。これから、挑戦は続きます。



尚美大に声援を送った、観客の皆さん



今後も安全運転を続けるために、真剣に講習に取り組んでいました



高齢者の安全運転のために

川越警察署が市内の教習所の協力を得て、65歳以上の方を対象に行っているシルバードライバードック。9月4日、三共自動車教習所（今福）で行われた講習には、72人が参加。運転技能を再確認しました。参加した皆さんは「自分では気づかないことも多いですね」「あらためて勉強になりました」と気持ちを引き締めていました。

子どもの手にも、なじみます

毎年多くの子どもたちが曳いている、川越市の山車「猩しょう猩じょう」。9月16日、曳き綱作りが川越まつり会館の駐車場で行われました。とび職の皆さんに指導を受けながら、約50人が力を合わせて綱を作りました。額に汗しながら、6時間かけて長さ40メートルほどの綱が2本完成。参加者の皆さんが手作りした曳き綱は、山車を曳く皆さんの手によくなじみ、大切に使えば20年以上もつそうです。



5本の縄を、1本に寄り合わせた物を3本作ります（上）
それに布を巻き、1本に寄り合わせて、曳き綱が完成（右）



高階中に名物誕生！

ことしの川越百万灯まつりで、躍動感あふれる踊りを披露してくれた高階中学校。9月16日の体育祭では、全校生徒424人による「よさこい鳴子踊り」が行われました。



曲も踊りも、高階中だけの「よさこい」です

生徒たちの息が合った踊りに、保護者の皆さんは大喝さい。同中学校では、これからもボランティア活動などのさまざまな機会「よさこい」を踊っていきたいと考えています。



関東甲信越ブロック大会の様子

仙波小学校合唱隊の皆さん
同合唱隊は、八月に行われた、「NHK全国学校音楽コンクール」小学校の部、埼玉県コンクールで優勝。そして、埼玉県の代表として、9月にさいたま市で開かれた「関東甲信越ブロックコンクール」に出場しました。コンクールでは、皆さんの美しく澄んだ歌声が、ホールを包み込みました。四年生以上で構成された隊員は、現在四十二人。歌うことが大好きな子どもたちです。練習は放課後、週二、三日行っています。四月から、夏のコンクールに向けての練習を行い、夏休みは、ほぼ毎日練習をしていました。
隊員の皆さんは、「音程を取るのが難しいけど、うまくできたときはとてもうれしい」「コンクールは緊張するけど、注目されて歌うのは楽しい」と、歌うことに喜びを感じているようです。

「子どもたちがどのように歌うのかを自分で考え、より表現豊かに歌えるようになることを目指しています」と顧問の中山尊之先生。これからは、みんなの成長を見つめていきます。

